

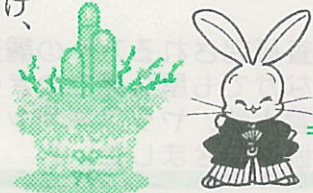
正 賀

人と自然が
調和していくためには

新年あけましておめでとうございませう。本年も「洋上アルプス」をご愛読いただきますよう宜しくお願いいたします。
屋久島が世界自然遺産に登録されて五年が過ぎ、各種フォーラムや新聞報道等で人と自然との調和について論議されていますが、その代名詞とも言うべき縄文スギ登山について考えてみます。

現在、最も利用の多い荒川からの縄文スギルートは、本来木材搬出のための森林軌道敷で、人が通る道ではなく（正式な登山道としては楠川歩道がある）登山者が平坦な道を歩こうとして、利用しているのが現状です。
林野庁では森林軌道敷きの老朽化や事業実行時の安全性等から、関係機関に対し代替ルートの検討等を要請してい

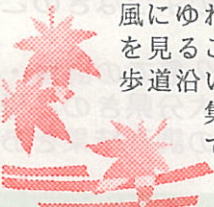
ます。
一方、縄文スギ周辺では、撮影のため灌木を伐採し、登山者が幹を触ったり根本を踏み付け、それらを取り巻く環境にダメージを与えてきました。これらのことを考えたとき人と自然が調和するためには人間が我慢することも必要で



自然休養林情報

白谷雲水峡の協力金実施業務を再会

県道白谷雲水峡宮之浦線の条件付き通行規制（夜間と雨天時は通行止め）が、昨年の12月25日から解除になりました。これに伴い、森林環境整備推進協力金実施業務を、1月上旬から再開することにしましたのでお知らせします。
利用者から拠出いただいた協力金は、遊歩道の改良補修やパンフレット・チケットの作成、休養林の清掃等に使用させていただきますので、入林者の皆様には、ご協力下さいますようお願いいたします。
いま、白谷雲水峡は紅葉が終わり、落葉したまてヒメシャラが赤茶けた樹幹をさらけだして、入口のヒメシャラが赤茶けた樹幹をさらけだして、風をよそいでいる。この風景は、歩道集めて見ると、いろいろな色がある。



はないでしょうか。
人間が壊した環境を復元することを含め、人と自然が調和しながら、屋久島の自然遺産をいかに後世に引き継ぐかが今年も大きな課題です。

小学三年生が山の仕事を勉強

十二月十七日、宮浦小三年生四四名と教諭二名が、社会科の授業の一環として保全センターを訪れました。
甲斐調整官が、OHPやスライドで森林の働きや山の仕事、保全活動等について説明し、生徒達には難しい話もありましたが熱心に聞いていました。
また、空中写真（学校の森）を反射式立体鏡で見てもらったところ興味深く見入っていました。
自然豊かな屋久島の子供達が、少しでも森林へ触れ合うことを心から望んでいます。



宮之浦岳森林パトロール実施

十二月十七日、淀川登山道入口から宮之浦岳を経て、高塚小屋までの森林パトロールを実施しました。
今回は、宮之浦岳周辺の登山道が、ササに覆われて通行に支障が出ているとの情報があり、その状況確認も行いま

屋久島の植物



ヤマハンショウズル (きんぼうげ科)

九州南部・屋久島・種子島に分布する亜熱帯性の植物。蔓性の多年草で、茎は木質。葉は三つ、肉質で光沢がある。花期は十二月〜一月。
屋久島では、県道安房公園線沿いの標高四百〜六百m位に、広葉樹に覆いかぶさるように多数の白く美しい花を咲かせている。

ヤクスギランドの施設整備等を検討!

（屋久島自然休養林）
荒川地区保護管理協議会現地検討会開催
十二月二十四日、荒川地区保護管理協議会現地検討会がヤクスギランドで行われ、東屋設置・看板移設や施設整備等について協議しました。
看板については、一五〇分コースに立てられていた著名スギ看板（二基）があまり利用されていないことから、観光客が多く、看板の数が少なかつた紀元スギ付近に移設することを決定しました。
その他、歩道整備について団体の利用が多い三〇分コースと、自然の状態を生かした他のコースとの棲み分けを行い、整備していくこと等が確認されました。



復旧治山の谷止工完成

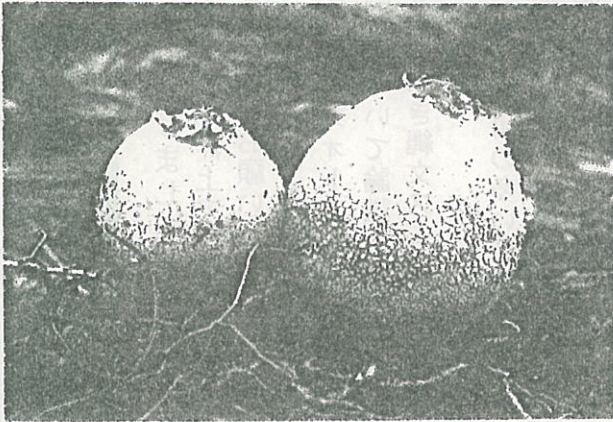
十年事業で施工中であつた、栗生、宮之浦、永田、白谷四地区の復旧治山工事が、このたび完成しました。
この谷止工の完成により、土石流による渓床の荒廃を防止して、下流への土砂流出を抑制することが期待されます。

お知らせ

白谷雲水峡は「きのこ」観察ももしろい!

○ このきのこは何? (森林教室での質問)

11月14日に白谷雲水峡で行われた上屋久町森林教室で、生徒から「楠川歩道で見つけたきのこの名前を教えてください」との質問を受けました。当日は、きのこに詳しいスタッフもいなかったため、「後日回答します」と言って下山し、保全センターに帰り早速図鑑で調べたところ、何とかそれらしききのこを見つけることができ「クチベニタケ(下欄に紹介)」ということがわかり、後日、教育委員会の先生を通じて生徒に回答しました。



クチベニタケ(ケシボウズタケ目、クチベニタケ科)

山地切り通しのがけや林内路傍に群生または散生。
高さ2.5~3.5cm、頭部と多足状の柄からなる。頭部は径5~10mm、汚白色~灰黄色、表面に細かなささくれを生じる。
湿気が多いと大きくふくらむ。頂部の孔口は星形、まわりは口紅をつけたような鮮紅色に縁どられる。柄は細長いそうめん状で、多数の菌糸束に分かれる。軟膏質でくずれにくく、寿命の長いきのこ。

「ポケット図鑑 日本のきのこ(発行所:成美堂出版)」より

○ どんなきのこがあるの?

このように、森林には普段見かけることのできないきのこが沢山あるようです。屋久島の森林にはどのようなきのこがあるのでしょうか。

保全センターでは、国有林内で調査研究される方々の調査内容や研究報告書等のデータを、今後の屋久島での調査・研究に利用できるよう蓄積してありますが、なかでも屋久島でのきのこデータが少ない中であって、今年の夏、大分県きのこ研究指導センターの村上康明先生が、白谷雲水峡、ヤクスギランドできのこ調査を実施されていますので、その調査結果をお知らせします。(今回、村上先生からご協力頂きました。)

○ 村上康明先生の屋久島での「きのこ調査」内容

- 調査期間 平成10年7月21日~平成10年7月27日(うち2日間の調査)
- 調査場所 白谷雲水峡周辺、ヤクスギランド周辺
- 調査目的 きのこ類の観察と採集

・屋久島におけるきのこ相の調査はほとんど行われておらず、どんな種が分布するか分かっていない。
・海拔0メートルから1935メートルまで、垂直分布による植物相の大きな変遷が見られ、きのこ相も豊富であることが期待される。
・屋久島におけるきのこ相を明らかにする第一歩として今回調査する。

- 調査方法 ランダムサンプリング(標本とするため必要最小限を採集)

・主に、林内においてきのこを探索し、興味深い種の発生が見られたときに写真撮影を行う。
・きのこを基物から切り離し、紙袋またはポリ袋に入れて持ち帰る。
・持ち帰ったきのこは外部形態の記載と写真撮影を行ったのち、通風乾燥機にて乾燥標本する。
・標本は、大分県きのこ研究指導センターに保存し、必要に応じて国立科学博物館等に委託する予定。

○ たくさんのきのこが……

調査結果は以下のとおりです。

場所	白谷雲水峡周辺で採取したきのこ	ヤクスギランド周辺で採取したきのこ
種類	<ul style="list-style-type: none"> * シュイロガサ * アミヒカリタケ(発光性) * ツエタケ * ピロードツエタケ * イヌセンボンタケ * ニガクリタケ * アイゾメクロイグチ * ヌメリニガイグチ * モエギアミアシイグチ 	<ul style="list-style-type: none"> * キツブヤマイグチ * ツギハギハツ * カワラタケ * ホウライタケ属の一種 * シビレタケ属の一種 * コガサタケ属の一種 * ベニタケ属の一種 * アンズタケ属の一種 * サルノコシカケ類の一種
特徴等	<p>以上、採取したきのこの数は合計24種100個であった。採集したきのこは乾燥標本とし、大分県きのこ研究指導センターに保管中である。 (*印のきのこは標本を作製したもの)</p> <p>・このうち、アミヒカリタケはキシメジ科(通常ひだを有する)でありながら、傘の裏はひだではなく、管孔になっており、発光性があるのが特徴である。熱帯性のきのこで、日本では北は和歌山県付近まで分布する。(採取した夜、DIWPAの関係で訪れていた学生と発光するアミヒカリタケを一緒に観察したとのこと。)</p> <p>・ヌメリニガイグチ、シュイロガサ、アイゾメクロイグチ、モエギアミアシイグチの各種は、屋久島での初記録であると思われる。 (モエギアミアシイグチは、シイノキと共生し、幻覚性のきのこの仲間とのこと。)</p>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・種類数では、九州本土とあまり変わらないだろうとのこと。 ・海岸付近の林では乾燥の為にきのこ類を確認できなかったが、雨が降れば出てくるだろうとのこと。 ・屋久島を訪れる機会があれば、再度調査したいとのことである。 	

